

## 自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	様似町立様似中学校
-----	-----------

### (1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年8月17日（木）	研修参加人数	12人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童生徒の自殺を予防するためのプログラム(解説編)」を活用し、自殺予防教育の重要性について、教職員の共通理解を図った。</li> <li>・「自殺予防教室の実践に向けて(その2)」を活用し、自殺予防教育プログラムについての理解を深めた。</li> <li>・「子どものSOSに気付くために～校内の教育相談体制を確認しましょう～」を活用し、校内の教育相談体制及び情報共有体制について現状把握を行った。</li> </ul>		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は、自殺するほど自分が追い込まれる状況を想像することは難しいと思うが、事前に解決策を知ったり、考えたりすることは重要だと感じた。</li> <li>・自殺を予防するために、日常的な指導や生徒との関わりが重要であるが、今回のような研修の時間を設定して、自殺予防教育に取り組むことは必要だと思う。</li> </ul>		
研修等で使用した資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の自殺を予防するためのプログラム(道教委)</li> <li>・自殺予防教室の実践に向けて(道教委)</li> <li>・子どものSOSに気付くために～校内の教育相談体制を確認しましょう～(道教委)</li> </ul>		

### (2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況（主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等）	
A 援助希求的 態度の 育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践の概要                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級内の望ましい人間関係の確立を目指し、第1学年の特別活動の時間において、学級担任及び第1学年団教諭2名が「望ましい人間関係の確立～相談しやすい人間関係を築こう」を題材に、授業を行った。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の変容を促す工夫（授業における工夫、他教科等との関連、事前・事後指導、外部人材の活用など）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が、人間関係に係る問題状況場面について、その対処方法を考える際、人間関係の問題を自分ごととして考えられるようにするため、個人で考えたあと、それぞれの考えを学級全体で発表する場面を位置付けた。</li> <li>・悩み事ができた際、誰かに相談することと相談しないことのそれぞれのメリットとデメリットについて、他者の考えに触れ、望ましい人間関係に係る自分の考えを深められるようにするため、自分の考えを基にグループで話し合いを行う場面を位置付けた。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の変容（子ども理解支援ツール「ほっと」等による生徒の変容）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校で7月及び12月に実施した、子ども理解支援ツール「ほっと」において、「相談」の項目が、3.1から3.3へ、「配慮」の項目が3.1から3.2へと、それぞれ上昇するなど、友達と相談しやすい雰囲気が高まった。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の感想                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに友達に相談する、助けてって言えるようにしたいと思った。</li> <li>・困ったら家族に相談しようと思った。</li> <li>・悩んだら、相談するだけではなく、自分なりの方法で解決できるようにもしたいと思った。</li> </ul> </li> </ul>	 <p style="text-align: center;">【授業の様子】</p>

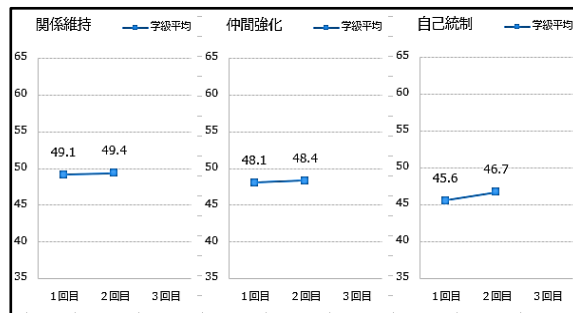
B 早期の問題認識（心の健康）

- 実践の概要
  - ・早期の問題認識（心の健康）の理解を深めることを目指し、第1学年の特別活動の時間において、学級担任および第1学年団教諭2名が「早期の問題認識（心の健康）について(1)～自殺の実態とその心理の理解について」を題材に、授業を行った。
- 生徒の変容を促す工夫（授業における工夫、他教科等との関連、事前・事後指導、外部人材の活用など）
  - ・生徒が自殺を選んでしまう人の気持ちや状況について、中高生の自殺を取り巻く現状を確認するとともに、自殺を選んでしまう人の気持ちについて考えが深まるようにするため、グループ内で交流する場面を位置付けた。
  - ・自殺予防のための具体的な行動について、生徒のストレスへの対処に係る実践力を養うことができるようにするため、保健体育科の「心身の発達と心の健康（ストレスへの対処の方法）」と関連付けて指導した。



【授業の様子】

- 生徒の変容（子ども理解支援ツール「ほっと」等による生徒の変容）
  - ・6月と12月に実施した子ども理解支援ツール「ほっと」において、「関係維持」、「仲間強化」、「自己統制」の3つの項目の数値が、それぞれ0.3～1.1ポイント上昇するなど、心の健康問題を友達と協力して解決しようとする雰囲気が高まった。
- 生徒の感想
  - ・友達の様子がいつもと違ったら、声をかけたり、相談に乗ってあげたりしたい。
  - ・中高生の自殺がこんなに多いと思わなかった。自分は今、悩みやストレスはそんなにないが、もし自殺を考えるほど辛くなった時は、勇気を出して家族や友達に相談しようと思った。
  - ・自殺のきっかけはひとつではないので、友達が「赤信号」になる前に手助けできたらいいと思った。

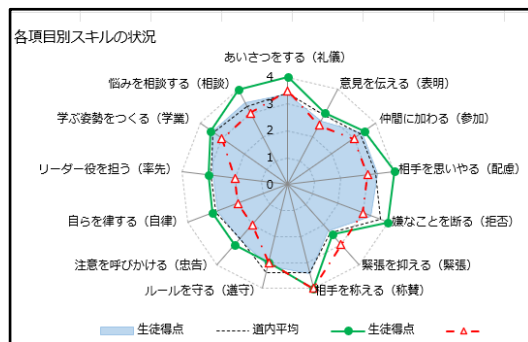


【子ども理解支援ツール「ほっと」の結果】

C ストレス対処能力の育成

- 実践の概要
  - ・失敗し暗くなりがちな状況であっても、将来を明るく展望する考え方を身に付けることを目指し、第3学年の特別活動の時間において、学級担任および第3学年団2名が「将来に目を向ける力を身に付けよう」を題材に、授業を行った。
- 生徒の変容を促す工夫（授業における工夫、他教科等との関連、事前・事後指導、外部人材の活用など）
  - ・生徒がこれまで感じたストレスの内容や程度について、自分がどのような場面でストレスを感じるかを理解し、適切に対処することができるよう、グループで交流する場面を位置付けた。
  - ・生徒自身の失敗体験をもとに、自分を責めてしまう考えを、生徒が自分の失敗をよい経験として捉え、次に活かすことができるよう、別の視点から考え直す学習活動を位置付けた。

- 生徒の変容（子ども理解支援ツール「ほっと」等による生徒の変容）
  - ・生徒Aは、周りに流される傾向が強く、自分を表現することが苦手であったが、本実践において、将来を明るく展望する考え方を理解したことにより、6月と12月に実施した、子ども理解支援ツール「ほっと」において、「自己統制」の数値が36.4から47.2へ上昇するとともに、周りに流されず、その場の状況に合わせて正しく判断したり、自分の考えのもと、行動できるようになったりするなどの変容が見られた。



【子ども理解支援ツール「ほっと」の結果】

- 生徒の感想
  - ・失敗したら落ち込んでしまうが、少し考え方を考えるだけでポジティブになれるから、悩みすぎないことが大事だと思った。
  - ・自分はいつまでもくよくよするけど、それだと前に進めないことがわかった。
  - ・失敗したら次に生かせばいいし、失敗も経験のうちだと思った。